純情産地発
クラーラ
KLARA
vol.813
2017.4

タイトルのKlara（クラーラ）は、宮沢賢治の手帳にしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。
全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

みんなの力で!
がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草 …… 02
特集
平成29年度（第47年度）事業計画 …… 03
平成29年度 全農岩手県本部編成表 …… 08
みのるinfo …… 10
「出向く活動班」の取り組みについて …… 10
29年度新機構紹介 …… 11

## 季節のエッセー いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

### 「ハコベ」

（ナデシコ科）

日本人の好むタコやイカを「デビル・フィシュ」（悪魔の魚）と呼び、嫌う国も多い。文化の違いにより、価値観は異なるものだ。しかし、異なった文化の間にも、意外な共通点があるから面白い。たとえば、このハコベ。春の七草の一つだが、今では人間が食べるよりも、小鳥のエサとしてなじみ深く、日本各地に「ヒヨコグサ」の方言がある。これが何と、西洋でも「チック・ウィード」（ヒヨコグサ）と呼ばれているという。早春の野原で、小さな星がまたたくように咲き始めるハコベは、冬の間、緑のエサに飢えていた小鳥たちにとっても、春を待ちわびていた私たち人間の心にも、たいへんなごちそうである。これを雑草として、見向きもしない人がいるとしたら、それはまさに価値観の違いとしか言いようがない。花びらは十枚に見えて、V字型をしたものが五枚ついている。

参考資料:澤口たまみ著『岩手の野草百科』（岩手日報社発行）より



# 特集 平成29年度（第47年度）事業計画

［平成29年4月から平成30年3月］

## Ⅰ. 重点実施策

本県の農業就業人口は年々減り続けており、今の年齢構成を考慮すると、今後急速な減少が危惧されています。その一方で、法人等大規模経営の販売ウエイトが高まっていることから、今後の本県農業生産の維持・拡大には、担い手を含めた大規模経営体に対する迅速かつ的確な生産性向上策の拡充や、小規模経営体に対する集落営農への結集など、地域農業の振興に向けた積極的な取り組みが求められております。

こうしたなかで、3か年計画で定めた事業施策の基本フレームに、「『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」で示した具体策を加え深化・拡充するとともに、「農業競争力強化プログラム」で本会に求められている取り組みの具体化をはかり、スピードを上げて実践します。

また、購買事業関連と販売事業関連の改革に積極的に取り組むことで、今次3か年で定めた「農家組合員の所得増大」に向けた「純情産地確立『栄』プラン」の実践と、農業生産の拡大をはかるための生産基盤維持・拡充策を一層加速させて取り組みます。

**1. 県産農畜産物の販売力強化**

(1)実需と産地のマッチング機能強化による「見える化」促進および多様な契約・販売手法による農家所得向上への取組強化
(2)広域集出荷施設「絆」「結（ゆい）」の活用による庭先・ルート集荷対応の拡充
(3)園芸生産者所得の安定化に向けた契約的取引および買取販売の拡大
(4)畜産事業の販売拡大に向けた供給先・全農グループ会社との産地提携事業の強化による新規取引先の開拓および銘柄の露出度向上
(5)訴求力のあるタレントを活用した県産農畜産物の総合的なPR強化
(6)米、牛肉、りんご、花きを中心とした輸出事業への取組強化
(7)各種スポーツ大会などへの協賛や農業体験イベント、食育活動（出前授業、学校給食など）実施を通じた「純情産地いわて」「ファンづくり活動の充実

**2. 生産者手取り最大化に向けたトータルコスト低減**

(1)トータルコスト低減に向け、モデルJA・生産者と一体となった取り組みの強化
(2)施肥・防除コスト低減に向けた各種対策の実施
(3)青果物出荷用段ボール規格統一など生産資材・流通資材の改善によるコスト削減
(4)農機基幹整備センターを活用した点検・格納整備の充実およびレンタル農機の推進強化による農機具費のコスト低減

**3. 「純情産地いわて」の生産基盤維持・拡充**

(1)米・大豆・麦の生産ビジョン策定と適正な作付配置・銘柄誘導の実施
(2)園芸産地確立事業による支援を通じた、新規生産者および営農組織等への園芸品目導入提案
(3)和牛改良センターの機能拡充による県内一貫生産体系モデルの確立と生産コスト圧縮支援
(4)畜産酪農事業の生産性向上に向けた本会生産指導部署による支援強化

**4. 実需者・流通のニーズに対応した農業生産の実践**

(1)マーケット・インにもとづく契約栽培の提案強化
(2)取引先ニーズに対応した産地づくりの推進および加工・業務用野菜の栽培技術の確立と普及促進

**5. 多様な農業者ニーズへの柔軟な対応**

(1)「JAいわてグループ農業担い手サポートセンター」との連携によるJA担い手支援体制の強化
(2)生産資材取扱強化に向けた、JAと一体となった担い手生産者・大型生産組織への訪問活動の展開築
(3)JAの事業貢献に必要な人材育成を目的とした各種講習・研修の充実

**6. 部門間連携による利便性向上および購買品取扱拡大**

(1)販売部門との連携による、地域や栽培品目に応じた生産資材の提案
(2)ガスと太陽光発電とのホームエネルギーベストミックスの導入提案の実施
(3)石油事業の修正マスタープランの策定・実践とSS運営力強化および営農用燃料の未利用組合員への巡回推進などによる取扱シェアの拡大

## Ⅱ. 部門別実施具体策ならびに行動計画

### 米穀部

【平成29年度基本方針】
- マーケットインへの事業転換
- 用途別需要に見合った米穀取扱数量の安定確保
- 流通コストの低減に向けた取り組み強化

【実施具体策】

国は、平成30年産米から産地の自主的な取り組みによる需給に応じた生産・販売といった農業政策への転換を進めています。

このような環境変化に対応し、JAいわてグループとして、主要産地としての地位を確立することを主眼に、30年産以降を見据えた生産・販売対策の再構築をおこなうとともに、JAと連携をとりながら安定取引に向けた取り組みを進めます。特にも、農業者の所得の増大・安定に向けて、マーケットインの視点で契約栽培など需要に応じた生産提案をすすめるとともに、岩手県と連携し新品種のブランド化を促進することで、マーケットからの「いわて純情米」の全体評価の底上げをはかります。

また、生産・集荷面では、JA・生産者のニーズに応えるため、新たに県北地区に広域集出荷施設を設置し、フレコン・庭先集荷を拡充するとともに広域集荷・輸送体制を確立し、流通コストの低減に取り組みます。

**1. 米穀取扱数量の安定確保**

(1)JAおよび水稲部会等への需要にもとづく生産提案の実施
(2)大規模経営体との信頼関係構築
(3)広域集出荷施設「絆」「結（ゆい）」の活用による庭先・ルート集荷対応の拡充

**2. マーケットインへの事業転換**

(1)実需と産地のマッチング機能強化による「見える化」促進および

## 園芸部

**【平成29年度基本方針】**
- **マーケットインによる生産振興**
- **「オールいわて」としての販売戦略構築による販売強化**
- **生産コストの低減**

**【実施具体策】**

本年度は、重点市場・重点販売先から求められる園芸品目を安定供給するため、反収向上や生産拡大対策に取り組みます。

反収向上については、県の技術指導やJA営農指導員と連携し、技術対策をすすめるとともに、支援対策として園芸産地確立事業による助成をおこないます。生産拡大については、新規生産者および営農組織等への園芸品目導入、加工・業務用野菜生産、秋冬品目生産を推進し、支援対策として園芸産地確立事業による助成をおこないます。また、取引先ニーズによる消費地提案を契約的販売や買取販売等を活用し、大型経営体等へ推進します。

販売強化対策として、岩手県の特徴を生かした「オールいわて」としての販売を強化するとともに重点市場・重点販売先との契約的取引を拡大します。また、品質競争力の向上をすすめるとともに重点市場・重点販売先におけるフェア等販売促進対策を拡大し、「純情産地いわて」の指定席を確保します。

生産コスト低減対策として、各品目の反収向上対策をすすめ、流通面では、流通資材の改善や輸送手段の安定的確保に取り組みます。

**1. 生産基盤拡大対策**

(1)反収向上対策

ア.園芸産地改革ネットワークにより、県およびJA営農指導員と連携し、反収向上のための技術の実証や普及を実施

イ.園芸産地確立事業により、実証展示圃設置、反収向上対策の支援

(2)新規生産者および営農組織等への園芸品目導入提案

ア.新規生産者および営農組織(集落営農・営農法人等)へ園芸品目導入を提案

イ.販売は買取販売を基本とし、生産拡大は、園芸産地確立事業により支援

(3)加工・業務用野菜の生産拡大

ア.野菜の需要の6割を占める加工・業務用向けの生産拡大

イ.重点3品目(寒玉キャベツ・レタス・タマネギ)

ウ.機械化体系の導入(たまねぎ)のため、農機レンタルの実施

エ.生産拡大については、園芸産地確立事業により支援

(4)秋冬品目の生産拡大

ア.稲作および園芸生産者の周年生産出荷による経営安定

イ.生産拡大については、園芸産地確立事業により支援

(5)マーケットインによる産地づくり推進のため、契約的取引と買取販売等を活用した提案(特に大型経営体への提案)

(6)グループ化の推進による計画生産・責任供給可能な産地育成

**2. 販売強化対策**

(1)重点市場・販売先への長期・安定供給実現に向け、JA間・集荷場間の連携などによる「オールいわて」としての責任供給体制強化

(2)産地直送の拡充と契約的取引(予約相対取引、直接契約取引)の拡大

(3)実需者および加工・業務事業者との連携強化

(4)生産情報の的確な把握による情報販売・計画販売の強化

(5)重点市場・重点販売先におけるフェア、産地交流会等の販売促進対策の拡大

(6)生産技術のレベルアップ、品質クレームへの迅速対応、目揃え会および検査体制の充実による品質競争力の強化

(7)地域および全県ブランド品目の販売強化

(8)消費地からの情報(販売状況・品質評価等)収集・発信の強化

**3. 生産コスト削減対策**

(1)生産性の改善、反収向上による収益向上策の推進

「園芸産地改革ネットワーク」において反収向上対策をテーマに活動を強化

(2)輸送の効率化による輸送コスト上昇の抑制と流通資材の改善(特に段ボールの規格統一等)については継続実施

## 畜産酪農部

**【平成29年度基本方針】**
- **系統組織一丸となった指導体制のスキルアップと生産性の向上**
- **系統組織の機能を活かした和牛の県内一貫生産体系の確立による農家経営基盤の安定**

**【実施具体策】**

畜産酪農を取り巻く環境は、生産者の高齢化、就労人口の減少、資金力のある企業畜産における急激な大規模経営化等の生産基盤体系になっており、和牛子牛並びに搾乳用初妊牛等を中心とした高騰相場の続伸は、家族経営の多い本県畜産酪農事業において再生産への支障をきたしています。

また、世界経済はグローバル化を基軸としておりましたが、米国における政権交代に伴い、今後反グローバル化の動きが強まり不安定要素が増すと思われます。

このような現状を踏まえ、JAグループの基本に立ち返り、生産性向上と組織機能を活かした県内一貫生産体系を推進し農家手取り最大化に取り組みます。

**1. 生産基盤の維持拡充**

(1)「和牛繁殖基盤対策事業」の推進による中核農家の育成

(2)「搾乳牛舎増設助成事業」および「初妊牛導入対策事業」による増頭支援

(3)和牛改良センターを活用した県内一貫生産体系モデルの推進と生産コスト圧縮支援

**2. 販売機能強化による有利販売の推進進**

(1)全農グループ関連会社等の機能活用による「いわて牛」輸出事業の継続的な取り組み

(2)供給先および全農グループ会社との連携強化による「肉豚産地提携事業」の拡充

(3)和牛市場購買者誘致に向けた県外キャンペーンおよび購買者懇談会の実施

(4)県内小中学校の学校給食における食育活動と併せ「いわて牛・いわて短角牛」の利用促進、岩手の牛乳・いわて純情豚の消費拡大及びスポーツ大会の開催等による新たな需要開拓



多様な契約・販売手法による農業者所得の増大・安定への取り組み強化

(2)マーケットインにもとづく契約栽培の提案強化

(3)県オリジナル新品種(銀河のしずく・金色の風)ブランド化による販売強化

(4)米・大豆・麦の生産ビジョン策定と適正な作付配置・銘柄誘導の実施

**3. 流通コスト低減(保管料・運賃等)に向けた取り組み強化**

(1)県北地区における広域集出荷施設「結」の建設と運営開始

(2)広域集出荷施設「絆」「結」を活用した効率的集約保管による保管料の低減

(3)31フィートコンテナ・一貫パレット輸送の取り組みやトラック輸送のロットアップの継続実施による輸送体制の確立

(4)早期販売による保管料の低減と県内販売の拡大による輸送コスト低減

**4. 食の安全・安心への取り組みの充実**

(1)残留農薬など各種分析体制の整備と多様な分析項目による安全・安心の確保

(2)DNA検査機器導入による自主検査体制の強化

**3. 生産性向上対策**

(1)受精卵移植を活用した酪農家の個体販売額向上と繁殖効率改善への支援

(2)「乳質改善事業」「カウコンフォート事業」による生産性向上対策の実施

(3)農家や外部支援組織(酪農ヘルパー利用組合、TMRセンター等)への指導支援

**4. 改良増殖事業の推進と「第11回宮城全共」に向けた対応**

(1)種牛の部は、選抜牛の巡回管理指導と技術強化への指導会実施

(2)肉牛の部は、定期巡回の継続による管理指導実施

## 資材部

**【平成29年度基本方針】**
- **生産者手取り最大化に向けた取り組みの強化**
- **肥料農薬の事業競争力の強化**
- **食の安全・安心への取り組み強化**
- **ガスを柱とした家庭用エネルギーの推進体制の構築**

**【実施具体策】**

持続可能な農業生産・農業経営づくりの貢献のため、モデルJAおよびモデル生産者に対する生産資材コスト削減および省力技術などの提案により、生産性向上の実践メニューに取り組み、「生産者手取り最大化」のための支援をおこないます。

特に肥料においては「BB肥料大規模農家対策」の農家段階での定着と生産者ニーズにマッチした肥料提案に取り組みます。

おいては「系統農薬担い手生産組織対策」の定着ならびに「担い手直送規格」の普及・拡充に取り組み、コスト低減に積極的に寄与します。

県産農畜産物に対する安全性を確保する取り組みとして、残留農薬分析・放射性物質検査等の各種分析業務レベルの維持向上につとめ、継続的に実施するとともに、農薬適正使用の徹底をはかります。

家庭用エネルギーの事業基盤の構築のため、訪問活動を通じてガスを柱とした家庭用エネルギーの推進体制の強化をはかるとともに、ガスの保安高度化を推進します。

**1. 生産者手取り最大化に向けた取り組みの強化**

(1)モデル生産者ごとのコスト低減に向けた提案および試験の実施

(2)提案内容の実践・検証により、優良事例については水平展開を実施

(3)各種講習会によるコスト低減を提案できるJA職員の育成

**2. 生産コスト低減に向けた取り組み**

(1)施肥コスト低減

ア.「BB肥料大規模農家対策」の農家段階での定着

イ.土壌診断の活用による生産者ニーズにマッチした省力・低コスト肥料の推進

ウ.一層の施肥コスト低減を目的としたBB肥料現地銘柄の開発・普及

(2)防除コスト低減

ア.「系統農薬担い手生産組織対策」の定着

イ.「大型規格」および「担い手直送規格」の普及・拡充

ウ.系統共同開発品目などの低コト農薬の採用促進

**3. 系統結集による事業競争力の強化**

(1)販売部門との連携による肥料農薬の取り扱い拡大

ア.栽培方法や農家ニーズに適応したBB肥料の開発・普及

イ.いわての特長である土づくり肥料の普及による良質米生産のための支援

ウ.系統独自品目の普及拡大による水稲減農薬栽培でのコスト削減

(2)JAと一体となった農家推進の強化・充実

**4. 食の安全・安心への取り組み強化**

(1)食の安全・安心確保に向けた各種分析・検査(残留農薬分析、放射性物質検査、DNA検査など)の実施

(2)土壌分析結果に基づいた施肥指導および環境保全型農業における省力・低コスト栽培技術の提案

**5. 家庭用エネルギー事業の推進体制の構築およびガス保安高度化の推進**

(1)販売力の強化

ア.JAと組合員・消費者とのつながりを深めるための訪問活動の充実

イ.燃料転換を中心としたLPガス増販と関連機器拡販

ウ.石油事業との連携をはかり、ガスと灯油と住宅用太陽光発電とのホームエネルギーベストミックス提案の実施

(2)保安力の強化

ア.JAガス事業自主点検による自主保安体制の充実および販売所への保安指導の実施

イ.24時間監視システムにおけるガスキャッチ普及率拡大による保安高度化

(3)容器検査施設および充填施設の運営改善

他系列業者との連携による効率的な充填・耐圧検査の実施

## 農機事業部

**【平成29年度基本方針】**
- **農機具費の低減と担い手支援**
- **事業環境に対応した人材育成**
- **事業運営基盤の強化**

**【実施具体策】**

農家戸数の減少により、中小農業機械を中心として需要は大きく減少する一方、担い手経営体の大規模化や法人化により、大型農業機械の需要は伸長する傾向にあることから環境変化に即応できる事業展開が求められています。

こうしたなか、大型化・高度化する農業機械の修理・整備対応に主眼を置いた基幹整備センターを活用し、担い手の農機具維持コストの低減およびサービスの向上をはかるとともに、農機一体運営収支の向上および人材育成による現場対応力の向上をはかります。あわせて、農機重点機種、中古農機の流通拡大および農機レンタル事業の拡充につとめます。

さらに、JAいわてグループ農業担い手サポートセンターとの連携のもと情報交換を密にしながら、生産者に求められる事業展開をすすめます。

**1. 農機具費の低減と担い手支援**

(1)JAグループ独自型式・推奨型式の供給拡大、経営規模拡大に対応した大型高性能機械の取扱強化、加工・業務用野菜の生産振興と連動した機械の普及

(2)JA園芸部との連携によるレンタル農機の利用促進とリースによる導入促進

(3)点検・格納整備の促進と基幹整備センターによるMCサポート強化

**2. 事業環境に対応した人材育成**

(1)整備・修理技術の向上に向けた、JAグループ農機検定による人材育成

(2)中古農機の流通拡大に向けた、中古農機査定士の養成

**3. 事業運営基盤の強化**

(1)全農新3づくり運動(①人づくり、②仕組みづくり、③結果づくり)の継続的取り組みによる活動基盤の充実

(2)JA農機職員プロジェクトによる企画提案型イベントの開催

(3)基幹整備センターを活用した系統農業機械事業のサービス体制の強化

## 東北広域施設事業所（岩手）

**【平成29年度基本方針】**
**■専門機能強化による新たな事業領域の拡大**
**■事業環境に対応した人材育成**

**【実施具体策】**

県内の建設情勢は、震災復興需要や東京五輪に向けた大型開発の着工がひと段落しつつあり、昨年の着工床面積は前年と同程度で推移している、一方建設就業者の高齢化が進み、今後は労務費がさらに上昇すると予想されることから、工事期間の長期化など、建設コストの先行き不透明は状況が続いていくと予想されます。

こうしたなか、「トータルコスト低減と担い手対応支援」に重点を置いた新たな施設整備や過剰施設の統廃合、既存施設の能力増強など、多様なニーズに応える提案による質的な事業領域の拡大と、関連会社や民間企業、担い手経営体にも業務推進の枠を拡げ、新たな顧客確保による量的な事業拡大に取り組みます。

また、事業継続に不可欠な、「1級認証プラント施工管理担当者」や一級建築士など専門能力の高い技術者の確保と育成に継続して取り組みます。

**1. 提案型事業の拡大**
(1)(2)新築物件における諸条件整理と魅力ある提案
(2)補改修物件における調査診断と提案
(3)担い手経営体に対する交付金事業等の提案による施設整備の実施

**2. 震災復興への対応**
(1)震災復興工事の施主代行による事業化
(2)将来の持続的な事業対応も考慮した復興支援

**3. 省エネ設備等への取り組み**
(1)(2)設計物件への提案と採用
(2)既存施設の調査、診断、改善計画の提案

**4. 事業環境に対応した人材育成**
一級建築士等の有資格者の人材確保

## 北東北石油事業所（岩手）

**【平成29年度基本方針】**
**■修正マスタープランの策定・実践とSS運営力強化による取扱シェアの拡大**
**■営農用・暖房用燃料の維持拡大**
**■輸送効率化による物流コスト低減**

**【実施具体策】**

石油事業を取り巻く環境は、軽自動車の増加、低燃費車の普及、ディーゼル車の保有台数の減少、電気・ガスへのエネルギー転換、効率の改善等により石油製品需要の減少が続くと見込まれます。

修正マスタープランの実践により、施設の老朽化によるSS統廃合やセルフ建設の提案を実施し、またSSの運営改善に向け、各種研修会並びにCS（お客様満足度）調査の実施を通じて改善提案をおこない、お客様満足度の向上をはかり販売数量の維持および新規顧客獲得をめざし事業競争力の強化に取り組みます。

**1. 修正マスタープランの策定・実践**
(1)フルSSのセルフ化促進提案（セルフ改造促進、新規出店等）
(2)ライフラインSSの低コスト建設・運営提案（コンパクトセルフ化提案）

**2. 運営力強化とブランド力向上**
(1)人・店創り、接客、クレンリネスの徹底等の運営改善による現場対応力強化
(2)既存セルフSSの黒字化に向けた再検討
（機器老朽化の改善、集客力向上、販売力強化）
(3)存置SSへの新CI塗装の実施によるイメージアップ強化

**3. 新型POSの導入促進**
バナー広告などの販促機能強化や安定稼働、高セキュリティー等の実現

**4. 戸配送合理化の提案**
配送実態の精査、配送拠点集約による戸配送車の減車提案

**5. 営農用・暖房用燃料の維持拡大**
巡回活動等を通じた未利用組合員、新規顧客利用への利用促進

## 消費地販売部

**【平成29年度基本方針】**
**■マーケットインへの事業転換**
**■総合販売企画の実践を通じた「純情産地いわて」ブランドの底上げ**
**■生産者（JA・組合員）と消費者・実需者との懸け橋機能の最大化**

**【実施具体策】**

農家組合員の所得増大」の実現に向けて、各販売部門（米穀・園芸・畜産）と一体となり「純情産地いわて」の総合的な販売力強化を推し進めます。また、消費地（東京・名古屋・大阪）における県産農畜産物の販売拠点として、消費地目線での販売企画の提案や消費宣伝・販売促進に取り組みます。更に、「純情産地いわて」ブランドの底上げをはかるため、消費者・実需者ニーズを的確に把握し、産地に対して迅速な情報発信を行い「純情産地いわて」の販売戦略の強化につとめます。

**1. 米穀部門は、マーケットインの視点で契約栽培など需要に応じた生産提案を実践し、農家組合員の所得増大・安定に向けて取り組みます。**

**2. 園芸部門は、「いわて純情野菜」「いわて純情りんご」の指定席確保のため、重点市場や重点販売先など取引先のニーズに対応した契約的取引の拡充により、安定販売の軸の構築をはかります。**

**3. 畜産部門は、「いわて牛」の安定的取引をはかるため、食肉市場での立会を通じて購買者に積極的に産地紹介をしながら、各購買者の好む肉質情報を収集・分析し、産地への情報発信と新規取扱推奨店の獲得につなげます。**

**4. 米の「銀河のしずく」「黄金の風」やりんごの「紅いろシリーズ」「冬恋」など新品種・新アイテムの定着化とあわせて県産農畜産物を広く消費者へ浸透をはかるため、フェアの開催などタイムリーな販売促進活動を強化します。**

## 管理部

**【平成29年度基本方針】**
**■会員JAの負託および事業環境変化に即応する事業運営の実践**
**■活力ある職場の醸成による職員の資質向上と経営効率化の促進**
**■コンプライアンス態勢とリスク管理対応の強化**

**【実施具体策】**

「純情産地いわて」の生産基盤の維持・拡充に向け、会員JAからの意見・要望に応えるとともに、事業環境の変化に即応した事業運営実践をすすめます。

また、消費者に信頼される「純情産地いわて」の実現を、販売力強化に向けた純情ブランドの認知度向上と本会事業への理解醸成を通じた統一的展開をします。

**1. ステークホルダーに支持される事業運営の実践と経営基盤の充実**
(1)会員JA等の声を反映した一体的事業運営の実践
(2)PDCAサイクルにもとづく環境変化に迅速に対応する経営管理の実践

**2. 職員の資質向上と経営効率化の促進**
(1)(2)事業環境の変化および自己改革に対応できる職員の養成
(2)新たな事業展開に向けた若手職員研修の充実
(3)効率的な事業運営に向けた管理業務合理化の促進

**3. コンプライアンス態勢とリスク管理機能の強化**
(1)コンプライアンス態勢評価による体制の確立
(2)「一斉事業点検」「態勢評価」等によるリスク管理の強化と未然防止

**4. 純情ブランド認知度向上と本会事業への理解醸成に向けた統一広報活動の強化**
(1)訴求力のあるタレントを活用した県産農畜産物のPR強化
(2)県産農畜産物の消費拡大に向けた直営飲食店舗の運営
(3)モニタリング等の取り組みを通じた実効性ある広報発信力の強化
(4)農業高校への取り組みを通じた、将来の農業担い手に対する理解度の向上
(5)スポーツ大会等への協賛や農業体験イベント実施を通じた、「純情産地いわて」ファンづくり活動の充実

# Ⅲ. 経営計画

## 1.取扱高計画

**【岩手県本部 部門別取扱高計画】**　（単位:千円、%）

| 部門・ユニット | 29年度計画 | 28年度計画 | 前年比 |
|---|---|---|---|
| 米穀 | 28,608,572 | 28,094,348 | 102 |
| 販売企画 | 81,017 | 54,000 | 150 |
| 大豆なたね | 529,912 | 557,340 | 95 |
| 麦類 | 254,451 | 234,378 | 109 |
| 袋資材 | 64,500 | 64,500 | 100 |
| 米穀部計 | 29,538,452 | 29,004,566 | 102 |
| 園芸 | 24,354,700 | 25,078,730 | 97 |
| 一般農産 | 330,700 | 279,600 | 118 |
| 園芸資材 | 246,400 | 219,000 | 113 |
| 段ボール資材 | 1,609,200 | 1,636,400 | 98 |
| 園芸部計 | 26,541,000 | 27,213,730 | 98 |
| 畜産生産 | 2,887,848 | 3,231,750 | 89 |
| 畜産販売 | 18,013,250 | 18,210,000 | 99 |
| 生体販売 | 16,097,880 | 14,172,500 | 114 |
| 酪農 | 21,988,500 | 21,704,165 | 101 |
| 畜産酪農部計 | 58,987,478 | 57,318,415 | 103 |
| 肥料 | 5,061,370 | 6,136,685 | 82 |
| 農薬 | 2,610,585 | 2,669,350 | 98 |
| 袋資材 | 477,180 | 481,375 | 99 |
| JAG | 13,000 | 13,000 | 100 |
| ガス | 1,485,400 | 1,515,800 | 98 |
| 資材部計 | 9,647,535 | 10,816,210 | 89 |
| 農機 | 2,953,400 | 3,156,900 | 94 |
| 建設 | 2,400,000 | 1,900,000 | 126 |
| 石油 | 12,718,184 | 12,431,068 | 102 |
| 総合計 | 142,786,049 | 141,840,889 | 101 |

## 2.要員計画

事業に対応した要員体制・適正配置をはかり、30年3月末の職員数は、190名程度とします。

## 3.機構改編

今次3か年（28～30年度）の最重要目標である「農家組合員の所得増大」および「農業生産の拡大」に向けた重要施策の着実な実践体制構築を目的として次の体制整備をおこないます。

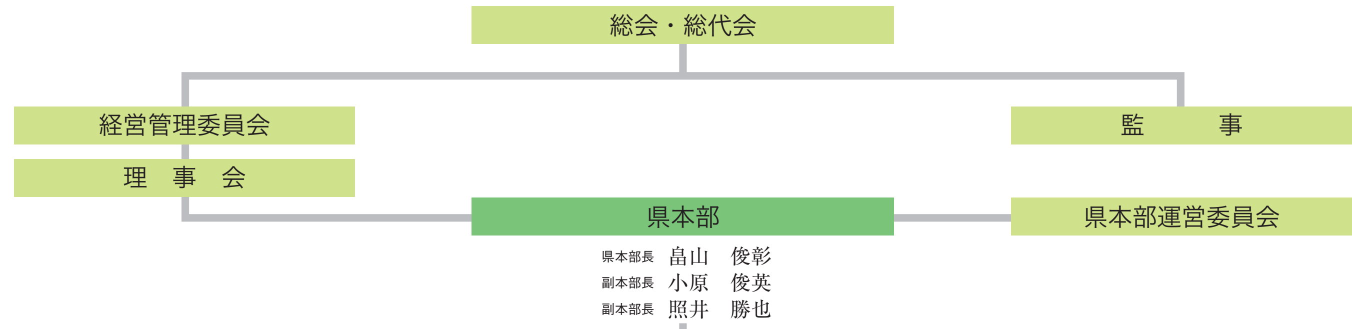
1.新設
(ア)多様な担い手・実需者双方のニーズに応える集荷・保管機能の向上を通じて本県産米の安定取引拡大を図ることを目的とした新たな米穀広域集出荷施設を取得するため、かかる機構を新設します。
いわて純情米県北広域集出荷センター（第5順位）
(イ)県央地区における園芸振興と販売力強化策と連携した生産現場推進力の強化を図るため、県北・県南に続き園芸センター拠点を新設します。
県央園芸センター（第5順位）

以上、平成29年3月1日現在の7部18課31センター体制から、平成29年度より7部18課33センター体制とします。

# 平成29年度 全農岩手県本部編成表 （平成29年4月1日）

※印はJA関連会社からの受入出向者

| | | |
|---|---|---|
| 本所 | 業務監査部 内部監査課 | 加藤　吾郎 |
| | グループ会社統括部 グループ会社監査課 | 吉岡　誠江 |
| | 総合企画部 企画課 | 佐藤　宏文 |
| | 総合企画部 事業開発課 | 佐々木　章 |
| | 経理部 会計課 | 吉田　桃子 |
| | 畜産総合対策部 統轄課 | 戸田　優 |
| | 家畜衛生研究所クリニックセンター東北分室 | 小笠原久美子 |
| 本所 | ＥＴ研究所北日本分場 | 千葉　祐一 |
| | 肥料農薬部 総合課 | 柿崎　龍 |
| | 肥料農薬部 広域土壌分析センター岩手 | 小笠原富美男 |
| | 生産資材部 農業機械課 | 津田　旭 |
| | 生産資材部 東北広域施設事業所 | 三浦　実 |
| | | 吉田　一寿 |
| | | 水堀　宏樹 |
| 本所 | 生産資材部 東北広域施設事業所 | 川原　美香 |
| | 生産資材部 東北広域施設事業所 岩手施設事務所 | 武田　修 |
| | | 中村　睦 |
| | | 三浦　友一 |
| | | 太田　正孝 |
| | 燃料部 北東北石油事業所 岩手推進課 | 今野　長博 |
| | | 小田　裕之 |
| 本所 | 燃料部 北東北石油事業所 岩手推進課 | 小山田和也 |
| | | 工藤　亮徳 |
| | | 岩本　大樹 |
| | | 阿部　清一 |
| | | 橋本　遼 |




## 農機事業部
部長 佐々木正博

### 農業機械課
課長 山崎　勉
課長代理 鈴木　淳
藤原明美　法領田祐子　佐々木礼子　及川将司　戎谷啓　大内修瑛　三浦智史　宇部純吾

- 基幹整備センター　センター長 小原　正喜　高橋純　安藤敏則　八重樫八郎　畠山耕栄　沼田廉一　浅沼貴博　小原るみ子
- 紫波農機センター　センター長 上戸　修　沼田和元　畠山源章　佐藤幹夫　小田中進　高橋桃子
- 矢巾農機センター　センター長 板山　和晃　新井田健一　宮野直人　高橋宗一郎　泉舘美由紀　武蔵互
- 花巻農機センター　センター長 本舘　一志　佐々木敦史　菊池清治　安藤匠悟　小田島猛　平賀浩美　本舘真也　大菅清達
- 石鳥谷農機センター　センター長 寺澤　清美　小原史也　田口敬晃　継枝イク　小田島孝夫　豊見坂盛夫
  - 東和農機サブセンター　センター長 髙橋　一男
- 遠野農機センター　センター長 中平　輝彦　鳥屋部俊勝　伊藤郁夫　菊池久恵
- 北上農機センター　センター長 及川　公　阿部裕一　石川翔太　高橋正一　伊藤牧子
- 西和賀農機センター　センター長 吉田　修　高橋重貴　泉川慎也　高橋裕子
- 江刺農機センター　センター長 安部　賢　千田仁　梅原貴弘　千葉孝浩　菊地洋信　菅野望　及川政志

## 資材部
部長 藤村明智　次長 多田和夫　次長 小川義則　次長 細越賢也

### 肥料資材課
課長 立花　工
課長代理 新田勝彦
小笠原康人　工藤謙太郎　青山江利子

### 肥料農薬推進課
（兼）課長 細越賢也
課長代理 川村憲幸
武蔵康雄　佐藤英樹　西村琢真　佐々木歩　高橋美由紀　藤原聖史　高橋留美子　半田優介　鈴木比呂　岩間裕太朗　※本野裕二　※菊池真也　※駒井雄介

- 花巻物流センター　（兼）センター長 細越　賢也
- 岩手中央物流センター　（兼）センター長 細越　賢也

### 営農技術課
（兼）課長 小川義則
課長代理 阿久津健
千葉丈　近江輝　木村千寿　小菅裕明　大坪健一

### エネルギー課
課長 菊池　悟
課長代理 熊谷勇亨
本田宗一郎　原幸子　今松光貴

- 岩手クミアイプロパンセンター　センター長 上平　勉　センター長代理 藤倉晋吾　佐々木康弘　吉田耕司　熊谷隆志
  - 県南供給センター　（兼）センター長 上平　勉

## 畜産酪農部
部長 後藤和彦　次長 小原克也　次長 林伸彦　次長 千田寿幸

### 酪農課
課長 丸田　博
課長代理 及川　潤
齋藤康寛　石川直幸　千葉瀬里奈　木村丈治

- 岩手山麓コールドセンター　（兼）センター長 丸田　博
- 葛巻コールドセンター　（兼）センター長 丸田　博
- 下閉伊コールドセンター　（兼）センター長 丸田　博
- 遠野コールドセンター　（兼）センター長 丸田　博
- 金ケ崎コールドセンター　（兼）センター長 丸田　博
- いわいコールドセンター　（兼）センター長 丸田　博
- 大野コールドセンター　（兼）センター長 丸田　博

### 家畜市場課
課長 久保正和
課長代理 高橋健一
長谷川勝子　三上雅祐　川底優子　泉田壮祐　毛利大地　佐藤航輔　佐々木秋人　千葉友枝　濱端隆雄　佐藤善弥

- 県南家畜市場　（兼）場長 久保　正和
- 中央家畜市場　（兼）場長 久保　正和
- 和牛登録室　（兼）室長 高橋　健一　坂下憲悦　休石茂　稲辺拓美　吉田純子　菊池和馬

### 畜産販売課
課長 田野秀司
課長代理 北智之
下山祥子　千葉彰夫　中奥拓真　加藤大地　秋山翔平　八重樫久悦　※佐藤寿春　※牧野美咲

### 生産指導課
課長 大津信一
課長代理 千葉祐一
佐藤早央梨　土生川佳世

### 畜産統括課
課長 津志田健司
課長代理 鎌田大樹
民部田勝則　福島恵理子　佐藤和敬　※菊池秋津

- 和牛改良センター　センター長 藤井　秀一　坂本学　村上剛　小倉俊春　上田恭正　榊明　伊藤俊介　橋本春香　工藤俊也

## 園芸部
部長 及川　毅　次長 川村千伸

### 花き・資材課
課長 畠山　正
課長代理 沼宮内一成
松ノ木祐幸　三浦靜江　阿部宏司　秋山百合　菅原栄伸　塚本友樹　山本玄輝

- 園芸育苗センター　（兼）センター長 畠山　正　照井淳夫　高嶋文孝　横澤進　畠山誉司子　島田裕也　小笠原翔

### 生産販売課
課長 三浦瑞明
課長代理 米倉勇二
高橋泰　古舘記由　八幡裕道　高橋亜紀　川村弥生　佐藤武志　扇田文子　川畑春海　菊池利行　佐々木仁

- 県南園芸センター　センター長 古坐　茂樹　菊池由晃　岩渕恵
- 県央園芸センター　（兼）センター長 三浦　瑞明　遠藤篤彦　菅原大展
- 県北園芸センター　センター長 山本　純三　平坂健宏　畠山博人　吉田有吾

## 米穀部
部長 伊藤　勝　次長 高橋　輝　次長 佐竹雅之

### 米穀販売課
課長 信田陽一
課長代理 遊田善幸
羽田野隆　小山田美由紀　田沼一明　田村尚之　赤崎弘悟　藤原靖史　鎌田佳恵　木村一哉　工藤達也　※齋藤匡平　伊藤専一

- いわて純情米広域集出荷センター　（兼）センター長 佐竹　雅之
- いわて純情米県北広域集出荷センター　（兼）センター長 佐竹　雅之

## 消費地販売部
部長 松田　功

### 消費地販売課
課長 鈴木　公
課長代理 玉山暢悦
佐藤大介（名古屋）　佐藤光（東京）　高橋司（東京）　佐藤亮太（東京）　高橋遼（大阪）　※柏山潤（東京）　※藤原一順（東京）

## 管理部
部長 高橋　司　次長 村上勘爾　次長 高橋一樹

### 総合企画課
課長 阿部貴明
課長代理 及川繁子
立花智昭　岩本雄州　小野将太　佐藤菜摘

- 純情産地いわての店「みのるダイニング」　（兼）所長 阿部　貴明
- いわて純情米の店「銀河食堂」　（兼）所長 阿部　貴明

### 総務人事課
課長 杉村　靖
課長代理 菅田公平
大沼渡　吉田恵理子　本宮紀子　藤原秀樹　清水晶子　津川紘香　島田充子　浅沼都美子　小田島啓司

### 経理課
（兼）課長 阿部博光
課長代理 菅原千賀子
久保真紀子　佐藤侑美　佐藤栞

### コンプライアンス課
課長 阿部博光
課長代理 千田哲寛
高木潤　伊藤正人

| | |
|---|---|
| ㈱純情米いわて | 熊谷　篤 |
| | 藤原　次則 |
| (公社)岩手県農畜産物価格安定基金協会 | 久慈　正 |
| ＪＡ全農北日本くみあい飼料㈱ | 藤原　豊一 |
| ＪＡ全農北日本くみあい飼料㈱北東北支店 | 西野　和幸 |
| | 藤倉　隆 |
| | 対馬　巧 |
| | 斉藤　光 |
| ＪＡ全農北日本くみあい飼料㈱北東北支店 | 佐々木慎士 |
| 東北生乳販売農業協同組合連合会 | 松島　大輔 |
| ㈱Ａコープ北東北 | 古坐　博夫 |
| | 中村　良徳 |
| 全農物流㈱ | 川村　益美 |
| 住田フーズ㈱ | 細川　和洋 |
| 岩手県農業協同組合中央会 | 今村　信明 |
| | 亀井　拓也 |
| 岩手県農業協同組合中央会 担い手サポートセンター | 菊池　規 |
| | 高橋　伸也 |
| | 新沼　真也 |
| | 熊谷ゆき子 |
| | 加澤　直志 |
| 岩手県厚生農業協同組合連合会 | 佐藤　広之 |

# みのるinfo

みのるダイニング
MINORU DINING

3月17日「みのるダイニング」開店

JA全農いわては3月17日、飲食事業を通じて、岩手県産農畜産物の消費拡大と地産地消を普及し、県下のJAおよび生産者の情報を消費者へ提供するため「いわて純情米の店『銀河食堂』」(平成28年度オープン)に続き2店舗目となる「純情産地いわての店『みのるダイニング』」を開店しました。

店のコンセプトは「県産肉を堪能できるレストラン」。県産肉のグリル料理を中心としたメニュー構成で、米、野菜ともに県産を中心に使用し、素材のうまみを最大限に引き出した定食、丼などを提供します。使用する肉は全て県産のもの。㈱岩手畜産流通センターから調達しています。

3月16日に行われた内覧会には、達増拓也岩手県知事や全農の桑田義文常務理事、本会藤尾東泉運営委員会長など約40名が出席。純情牛のローストビーフや、いわて純情豚の南部鉄グリルなど計8品が振る舞われました。桑田常務理事は「この店が農業振興や地域振興の拠点になれば」と期待を寄せ、藤尾会長は「畜産県いわての発展、畜産経営の収益性向上、生産基盤強化などに一翼を担うレストランを目指していきます」と意気込みを語りました。

## 店舗DATA

| | |
|---|---|
| 店舗名 | 純情産地いわての店「みのるダイニング」 |
| 所在地 | 盛岡市盛岡駅前通1番44号<br>盛岡駅ビルフェザンおでんせ館1F |
| 営業時間 | 10:00～22:00(ラストオーダー21:30)、不定休 |
| 休業日 | フェザン休館日に準ずる |
| 店舗規模 | 42.96坪、席数60席 |

# JAいわてグループ農業担い手サポートセンター

## 「出向く活動班」の取り組みについて

JAいわてグループ農業担い手サポートセンター(以下、サポートセンター)が始動し二年目を迎えることとなりました。

初年度は、平成27年11月に開催された第44回JA岩手県大会の決議事項である、担い手経営体を中心とした農家組合員のニーズに応える個別対応強化を重要施策として、具体的には①営農・経済事業体制の強化、②担い手経営体に出向く活動・態勢の整備・強化、③農業管理支援事業の強化、④担い手経営体等の労働力確保対策、⑤集落営農組織の法人化支援等の拡充、⑥農業所得増大等に向けた食と農ビジネスの展開支援、⑦全国連による「農業所得増大・地域活性化応援プログラムの積極活用、⑧多様な担い手への生産・販売支援の強化による、農業生産の拡大と農家組合員の所得増大を目的として取り組んで参りました。

平成29年度については、昨年度の取組みをさらに深めていくとともに、JAにおける担い手情報の共有化を最重点課題と位置づけ、JAいわてグループ農業担い手サポート事業の推進活動を積極的に展開し、担い手訪問活動のレベルアップをはかります。

また、生産者の高齢化、労働力不足が顕著となっており、純情産地いわての生産拡大をはかるためには、若手農業者対策と労働力確保対策が重要となります。このことから、若手農業者対策として全農本所が作成した「事業承継ブック」を活用した取組みをJAと一体となって取り組むとともに、労働力確保対策として、JA・サポートセンターが中心となり、労働力確保対策研究会を開催し、協議してまいります。

担い手訪問活動のレベルアップをはかります



# 29年度新機構の紹介

## 「いわて純情米」県北広域集出荷施設『結(ゆい)』新設

米穀部は、県中地区の広域集出荷施設【愛称：絆(きずな)】に続き、県北地区において、「いわて純情米」の集荷・保管の拠点となる検査場を併設した広域集出荷施設【愛称：結(ゆい)】を建設します。

「結」の設置により、JAと一体となった集荷・販売体制を構築、大規模生産者ニーズに対応し、フレコン集荷・庭先集荷などにより集荷拡大をはかるとともに、通年での品質確保・安定供給に努めます。また、集約保管倉庫として活用し、営業倉庫への集約保管にかかる共計経費を削減、生産者手取りの向上をはかります。

3月13日に行われた起工式には、JAや建設関係者約40名が出席。JA岩手県五連の藤尾東泉会長や田沼征彦前会長、JA新いわて久保憲雄代表理事組合長、本会畠山俊彰県本部長が鍬入れの儀を行い、工事の安全を祈願しました。畠山県本部長は「『絆』と合わせて3万トンの米が保管可能となる。この地域は、日本穀物検定協会の食味ランキングで2年連続の特A(参考品種)を獲得した『銀河のしずく』の作付地帯。低温保管室を十分に活用し、品質を落とさぬよう全国の消費者へ届けていきます」と、いわて純情米の安定供給を誓いました。

| | | |
|---|---|---|
| 施設名称 | 「いわて純情米」県北広域集出荷施設【愛称：結】 | |
| 建設予定地 | 岩手県滝沢市後268番2185、268番2186 | |
| 施設概要 | 延床面積 | 9,900.00㎡<br>(2,994.75坪) |
| | 標準収容力 | 12,957.0トン(全室低温倉庫：1,851㌧×7室) |
| 今後のスケジュール | 平成29年8月下旬 | 完成予定 |
| | 平成29年9月中旬 | 竣工式・事業開始 |

# 園芸部 県央園芸センター新設

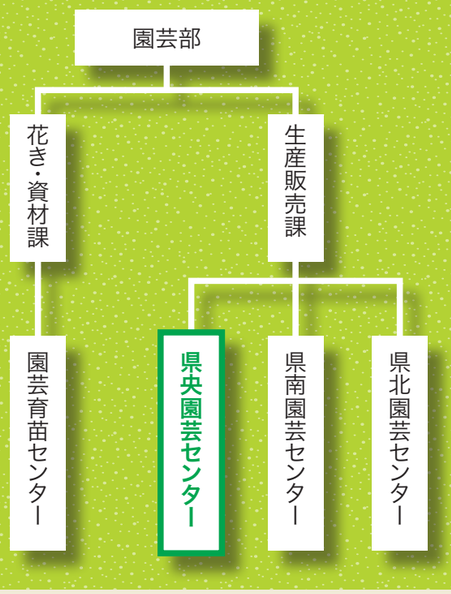
園芸部は、県北園芸センター(平成21年度設置)、県南園芸センター(平成24年度設置)に続き、本県県央地区における野菜振興および販売力強化を目的に「県央園芸センター」を設置します。

管轄JAはいわて中央とJAいわて花巻です。

県央園芸センターの設置により、JAを専任で担当し、今次3か年で策定した重点実施策である「買取販売の拡大」「加工業務用野菜の拡大」「大型経営体への園芸品目導入提案」にむけ一層、生産現場推進力を加速させていきます。管轄するJAいわて中央とJAいわて花巻は、果菜類中心の産地ですが、現在営農組織への園芸品目導入を積極的に推進し、果菜類導入にくわえて加工業務用野菜の拡大が進んでいる産地でもあります。

県央園芸センターはこのことを踏まえ、両JAへの生産提案、生産基盤拡大および販売強化をはかり、さらには生産者まで積極的に足を運び、「農家組合員の所得増大」にむけて業務遂行をしていきます。

### 平成29年度園芸部機構図



## 編集後記

4月、あっという間の1年目が終わり、2年目へと出発した私。まだまだ未熟者ですが、先輩の技を盗みながら、皆さまが読みやすい広報誌を作成してまいりますので、今年度も引き続きよろしくお願いします。

さて、JA全農いわては新たな体制で平成29年度のスタートを切りました。今年度からは、純情産地いわて宣伝本部長に就任した「のん」さんの活動報告コーナー(不定期)や、本会直営飲食店2店舗の紹介コーナーを設け、最新情報をお届けしていきます。

また、来月号では新採用職員の紹介ページを掲載しますので、お楽しみに。

(小野)

純情産地発 KLARA JA全農いわて通信 クラーラ 平成29年4月1日発行 No.813

## ●全農岩手県本部

| 部署名 | | 住　所 | 電話番号 | FAX |
|---|---|---|---|---|
| 受付 | | 〒020-8605　岩手県盛岡市大通一丁目2番1号　（岩手県産業会館） | (019)626-8603 | (019) 626-8634<br>(019) 653-6145 |
| 管理部 | 総合企画課 | | (019)626-8615 | |
| | 総務人事課 | | (019)626-8610 | |
| | 経理課 | | (019)626-8629 | |
| | コンプライアンス課 | | (019)626-8163 | |
| 米穀部 | 米穀販売課 | | (019)626-8644 | (019)624-4822 |
| 畜産酪農部 | 畜産統括課 | | (019)626-8654 | (019)653-3746 |
| | 生産指導課 | | (019)626-8660 | (019)621-8630 |
| | 酪農課 | | (019)626-8662 | |
| 資材部 | 肥料資材課 | | (019)626-8674 | (019)653-9865 |
| | エネルギー課 | | (019)626-8688 | |

## ●拠点事業施設

| 部署名 | | 住　所 | 電話番号 | FAX |
|---|---|---|---|---|
| 消費地販売部 | 消費地販売課 | 〒143-0001　東京都大田区東海三丁目2番1号（大田市場事務棟4F） | (03)5755-6360 | (03)5492-5208 |
| 園芸部 | 生産販売課 | 〒020-0891　紫波郡矢巾町流通センター南二丁目5番2号<br>（JA全農いわて純情産地営農支援センター） | (019)614-1896 | (019)638-2145 |
| | 花き・資材課 | | (019)614-1895 | |
| 資材部 | 営農技術課 | | (019)638-6982 | (019)639-5788 |
| 農機事業部 | 農業機械課 | | (019)681-0361 | (019)639-5808 |
| 畜産酪農部 | 畜産販売課 | 〒028-3311　紫波郡紫波町犬渕字南谷地120番地 | (019)672-4313 | (019)676-3475 |
| | 家畜市場課 | 〒020-0503　岩手郡雫石町七ツ森20番地１ | (019)692-5711 | (019)692-4951 |
| 資材部 | 肥料農薬推進課 | 〒025-0312　花巻市二枚橋第5地割120番地1（肥料資材推進センター） | (0198)26-2390 | (0198)26-2080 |

## ●センター

| 部署名 | | 住　所 | 電話番号 | FAX |
|---|---|---|---|---|
| 管理部 | いわて純情米の店　銀河食堂 | 〒020-0024　盛岡市菜園一丁目12-25 | (019)601-5534 | (FAX兼) |
| | 純情産地いわての店　みのるダイニング | 〒020-0034　盛岡市盛岡駅前通1番44号（盛岡駅ビルフェザンおでんせ館1階） | (019)601-7214 | (FAX兼) |
| 米穀部 | いわて純情米広域集出荷センター | 〒025-0312　花巻市二枚橋第5地割165番地 | (0198)29-4325 | (0198)26-5021 |
| 園芸部 | 県北園芸センター | 〒028-4307　岩手郡岩手町大字五日市12-60-2 | (0195)61-2131 | (0195)62-6588 |
| | 県央園芸センター | 〒020-0891　紫波郡矢巾町流通センター南二丁目5番2号（JA全農いわて純情産地営農支援センター） | (019)614-1896 | (019)638-2145 |
| | 県南園芸センター | 〒023-0171　奥州市江刺区田原字深沢5-60 | (0197)28-3855 | (0197)32-2866 |
| | 園芸育苗センター | 〒028-3452　紫波郡紫波町片寄鍛冶屋敷5-1 | (019)673-8066 | (019)673-8068 |
| 畜産酪農部 | 和牛改良センター | 〒020-0619　滝沢市上岩手山268-7 | (019)688-4044 | (019)688-6629 |
| | 和牛登録室 | 〒020-0503　岩手郡雫石町七ツ森20番地1 | (019)692-5711 | (019)692-4951 |
| | 中央家畜市場 | 〒020-0503　岩手郡雫石町七ツ森20番地1 | (019)692-5711 | (019)692-4951 |
| | 県南家畜市場 | 〒023-0171　奥州市江刺区田原字深沢5-60 | (0197)32-2858 | (0197)32-2857 |
| | 岩手山麓コールドセンター | 〒028-7113　八幡平市平笠第24地割1番77号 | (0195)76-2422 | (0195)75-2443 |
| | 葛巻コールドセンター | 〒028-5403　岩手郡葛巻町江刈14-218-1 | (0195)68-2341 | (0195)68-2343 |
| | 下閉伊コールドセンター | 〒027-0502　下閉伊郡岩泉町乙茂字和乙茂8番地1 | (0194)31-1333 | (0194)22-3900 |
| | 遠野コールドセンター | 〒028-0503　遠野市青笹町青笹18地割1番地 | (0198)62-6638 | (FAX兼) |
| | 金ヶ崎コールドセンター | 〒029-4503　胆沢郡金ヶ崎町西根高谷野原79-1418 | (0197)43-2545 | (FAX兼) |
| | いわいコールドセンター | 〒029-0523　一関市大東町摺沢字沼田27番 | (0191)75-2572 | (FAX兼) |
| | 大野コールドセンター | 〒028-8803　九戸郡洋野町大野阿子木第18地割上川原36番156 | (0194)77-5506 | (FAX兼) |
| 資材部 | 花巻物流センター | 〒025-0312　花巻市二枚橋第5地割120番地1（肥料資材推進センター） | (0198)30-1200 | (0198)30-1266 |
| | 岩手中央物流センター | 〒028-3622　紫波郡矢巾町大字上矢次7-54-7 | (019)698-3717 | (019)698-3718 |
| | 岩手クミアイプロパンセンター | 〒025-0312　花巻市二枚橋5地割120-1 | (0198)26-3124 | (0198)30-2404 |
| | 県南供給センター | 〒029-4205　奥州市前沢区字小沢口25番地3 | (0197)56-7444 | (0197)56-2404 |
| 農機事業部 | 基幹整備センター | 〒024-0071　北上市上江釣子17地割64-1 | (0197)-72-5135 | (0197)72-5136 |
| | 紫波農機センター | 〒028-3453　紫波郡紫波町土舘字沖田25 | (019)673-7127 | (019)673-8364 |
| | 矢巾農機センター | 〒028-3625　紫波郡矢巾町大字室岡11-3-5 | (019)697-3133 | (019)611-2244 |
| | 花巻農機センター | 〒025-0052　花巻市野田307-1 | (0198)23-2110 | (0198)22-7900 |
| | 石鳥谷農機センター | 〒028-3131　花巻市石鳥谷町猪鼻7-68-1 | (0198)47-2111 | (0198)47-2470 |
| | 東和農機サブセンター | 〒028-0114　花巻市東和町土沢6-111 | (0198)42-4006 | (0198)42-3250 |
| | 遠野農機センター | 〒028-0541　遠野市松崎町白岩25-24-1 | (0198)62-0586 | (0198)62-9297 |
| | 北上農機センター | 〒024-8505　北上市流通センター601-8 | (0197)71-1777 | (0197)68-4555 |
| | 西和賀農機センター | 〒029-5612　和賀郡西和賀町沢内大野12-158 | (0197)85-3215 | (0197)85-2109 |
| | 江刺農機センター | 〒023-1103　奥州市江刺区西大通り11-18 | (0197)35-2716 | (0197)35-2569 |

## ●本所拠点施設

| 部署名 | 住　所 | 電話番号 | FAX |
|---|---|---|---|
| 東北広域施設事業所<br>東北広域施設事業所　岩手施設事業所 | 〒020-0891　紫波郡矢巾町流通センター南二丁目5番2号 | (019)638-1405 | (019)638-1519 |
| 北東北石油事業所 | 〒020-0143　盛岡市上厨川横長根42-1（JAいわて中央厨川出張所2F） | (019)646-7283 | (019)605-3303 |

## ●主要関連会社

| 部署名 | 住　所 | 電話番号 | FAX |
|---|---|---|---|
| ㈱純情米いわて | 〒020-0842　盛岡市湯沢15-1-2 | (019)638-0120 | (019)637-7911 |
| くみあい肥料㈱ | 〒025-0312　花巻市二枚橋第5地割146番地 | (0198)26-3313 | (0198)26-3316 |
| JA全農北日本くみあい飼料㈱北東北支店 | 〒020-0891　紫波郡矢巾町流通センター南二丁目5番2号 | (019)638-7910 | (019)638-7920 |
| ㈱Aコープ北東北 | 〒020-0861　盛岡市仙北二丁目5番4号 | (019)681-6321 | (019)636-3722 |
| ㈱岩手畜産流通センター | 〒028-3311　紫波郡紫波町犬渕字南谷地120番地 | (019)672-4181 | (019)676-2024 |
| 岩手農協チキンフーズ㈱ | 〒028-6103　二戸市石切所字火行塚25 | (019)23-3377 | (019)22-4366 |

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
■営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
■安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
■地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ
〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号　TEL019-626-8615　FAX019-653-6145
http://www.junjo.jp

PRINTED WITH SOYINK

【編集・発行】JA 全農いわて 総合企画課　【印刷】株式会社 杜陵印刷